

アスパラガスの冠水後の管理について

R5.7 アグリ技研（株）

1. 今後の肥培管理について

【最も注意する点】

① 晴天日の茎葉のヤケ（傷み）防止⇒ 十分な換気対策（涼しく）

冠水により、土壌や茎葉の水分は高水分となりハウス内の高温になった場合は、茎葉から水分が蒸散して葉ヤケなどになりやすくなりますので、ハウス内の換気に努めます。

② ハウス内の土壌を乾かす⇒ 水分抑制・調整対策

一時的な酸欠状態となり、数日は若茎も増加しますがその後根の退化とともに収穫量も減少すると推測されますので、水を控えて土壌を乾燥させましょう。

【対策】

① 畝上まで冠水の場合は「茎枯・立枯性」や「エキ病」の対策

土壌表面からの感染源となりやすくなりますので土壌の乾燥時に登録剤の使用（エキ病の薬剤には、ダコニール 1000・プロポーズ顆粒「収穫前」）などの散布。茎葉には、茎枯や斑点性の予防にベンレート、ダコニール 1000 の防除

② 根域の充実、吸収根の充実や通気性の対策（土壌の乾燥後処理）

◎根張りを良くする⇒アミクエを 5～10 kg/10a の灌水処理

◎土壌の通気性をよくする⇒フシヨクフルを 5～10 kg/10a の灌水処理

◎極端な土壌の凝固、湿り土壌の場合には⇒EB-a エコを 200 倍灌水処理

③ 発根・エキ病抑制対策

◎発根促進に⇒亜リン酸有機 8 号を 2 袋/10a の畝上散布処理（月 1 回）